



国労西日本

国労西日本本部

NO. 353

発行責任者 植田 重信
編集責任者 大北 真也

国労西日本HP



国労西日本 検索

第44回拡大西日本本部委員会を開催

24春闘、団結して闘おう！

国労西日本本部は2月3日に国労大阪会館大会議室において、第44回拡大西日本本部委員会を開催し、第37回定期西日本本部大会以降の活動の総括を行なうとともに、2024年春闘をはじめとする当面の闘争方針を決定しました。

24年春闘勝利、安全・安心の鉄道と社会をつくろう 3・14国労西日本総行動 3月14日14:00~

→挨拶する脇田議長



第44回拡大西日本本部委員会はWEB併用で行ない、大和執行副委員長の司会によって開会された。議長には近畿地方本部選出の脇田委員が選出され、植田執行委員長挨拶、国労本部より辻執行委員の挨拶を受けた。

河野業務部長から協約・協定の締結提案があり承認がされました。続いて大北書記長から当面する闘争方針の提案、そして討論が行なわれ特別代議員を含む10名から発言がありました。本部答弁及び西日本本部の答弁後、大北書記長の集約が行なわれ採択されました。谷澤執行委員から委員会宣言が提案され確認されました。藤野執行副委員長の閉会挨拶を受け、植田執行委員長「団結ガンバロー」で終了しました。

植田執行委員長挨拶要旨



2024年1月1日に発生した能登半島地震は広範囲にわたる甚大な被害に見舞われ、不自由な生活を余儀なくされています。2日には羽田空港での旅客機と海保機との衝突事故が起りました。震災・事故で亡くなった方々のご冥福をお祈りすると共に被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。1日も早い回復と再建・復興を願うものであります。

ロシアによるウクライナへの軍事侵略は長期化し、パレスチナ・ガザ地区を中心にイスラエル軍のハマスへの攻撃が続いています。1日も早い停戦と紛争のない世界を求めて行かなくてはなりません。一方、日本では軍拡や改憲に向けた動きも活発化し、2027年までの5年間で43兆円の軍事費のために年金・医療・福祉などの削減と負担増による軍拡・増税への策動は、アメリカとともに「戦争する国」として更に進めるものです。

「政治とカネ」金権腐敗の自民党政権を一刻も早く終わらせ

なければなりません。私たちは平和で安全な世の中、国民が安心して暮らせる社会の実現が求められています。

組織強化・拡大の取り組みでは本部闘争指示第3号に基づき、各地方本部1名以上の組織拡大をやりきるため、動きを止めず大きな流れを築き上げようと思統一を行なってきました。同時に次世代へ国労運動と組織を繋いでいくために全組合員が職場から運動を展開するHPやSNS、国労中央本部が拡大へのツールとして新しく開設された「ツナグ」と合わせ活用し、情報を発信しながら「知ってもらい、見える国労運動」に力を入れ、職場環境・労働条件改善のため、要求の多数派から組織の多数派に向け前進させて行くことはありませんか。

安全・安心の鉄道輸送の確保では「合理化・効率化」施策が一層加速しています。安全考動計画2027の初年度に8月30日に感電事故、12月5日に触車事故が発生し2名の尊い命を失う事故が発生させました。安全に必要な要員の確保と本格的な改善を求め運動を強化しなければなりません。安全・安心の鉄道輸送の確保、労働条件の改善と健康で安心して働き続けられる職場づくりをはじめ闘いを進めることが重要です。

JR会社が発足し37年が経過しようとしています。鉄道は一度廃止されれば再開が困難です。初会合が3月26日行なわれます。公共交通機関としての役割と鉄道の安全を守るため、労働組合として取り組んで行く決意です。中央本部・地方本部と連携して引き続き運動を強化す

るものであります。

24春闘は力を合わせ奮闘しようではありませんか。JR西日本の第3四半期決算が公表され、純損益1,098億円と3期連続の増収・増益と通期予想も上方修正しています。貨物会社の中間決算では連結で10億円減、単体では20億円減となり、2024年3月期見通しを大幅に改定しています。期末手当の低額回答を許さず、社員の生活とモチベーションの向上、将来への不安を無くし若年層の退職に歯止めを掛け、各JR会社・グループ会社を含むすべての労働者の大幅賃上げ、誰もが安定した雇用の拡大、会社間格差の是正、安全輸送の確立、労働条件改善、非正規社員の正社員化、同一労働同一賃金、明るく働きやすい職場と生活改善を図るため、全国統一闘争で要求実現に向け全組合員が総団結・総決起し、大幅賃上げ、賃金改善を勝ち取るために奮闘することが重要です。

岸田政権により国民生活に多大な影響を及ぼしていることに反省を促しています。私たちは、立憲主義、平和的生存権を守り、戦争させない安全保障と非核三原則の堅持、憲法9条の改悪・集団的自衛権の行使を許さず、辺野古新基地建設の中止、核兵器廃絶、原発廃止、「戦争する国づくり」の暴走を終わらせるため真の野党共闘の推進が不可欠です。

西日本本部執行部は、24春闘勝利、大幅賃上げ獲得、労働条件改善、諸要求・諸課題の実現に向け、闘いの先頭に立つ決意を表明し、西日本本部を代表しての挨拶とします。共に頑張りましょう。



委員発言

①

委託化では安全は不十分



山脇委員 (近畿)

工場部門における業務区分の見直しについて、2020年から委託化が始まり全ての検修業務が委託される。台枠は特に重要な業務であり安全の担保が課題である。委託会社の要員不足や認識不十分が問題である。本部として各地方との連携を。春闘について、これまでの低額回答で不満が増大している。要員削減が提案されている。安全最優先とは思えない。しっかりと追及を。ベースアップ、年間臨給の満額獲得に向けて奮闘していく。ストライキを含めたあらゆる戦術の構築を。

ローカル線について、国や自治体の支援のあり方も含め存続に向けた具体的な取り組みを。自民党の裏金問題について、岸田内閣の早期退陣に向けて奮闘を。組織拡大・強化について取り組みを強化し目標達成に向けて全力をあげる。

ストライキ通告して闘おう



山下委員 (近畿)

地区本部は毎年拡大をしている。若者の不満や矛盾は拡大している。諦めず訴えよう。乗務員職場において2重労働が発生している。本部として対応をさせていただきたい。

バリアフリー料金金を危険な箇所へ使用するべきである。鳴野駅のホーム要員の配置、ステップやホーム柵などの対応が必要である。再構築協議会の会合に向けて本部としてどのように考えているのか。春闘は会社ToStrayキ通告をして闘うべきである。

社員犠牲の生活苦の改善を



高橋委員 (北陸)

能登半島地震について本部要請にご理解いただきご協力を。貨物の春闘について、家族を含め生活苦である。春闘はストライキで闘おう。

北陸新幹線敦賀延伸について3セクとなり、社員の異動が伴う。貨物の線路使用料は増額されている。城端線・氷見線について、西日本会社は赤字線を切り離そうとしている。ローカル線問題に

ついて本部から申入れを行ない交渉をして頂き、くぎをさしていただいた。共に奮闘する。

やれば出来るーやりきろう！



福本委員 (広島)

組織拡大について2年連続やってきた。「やれば出来る！やらなければ出来ない！」デマを言われていた。実際には加入者は加入して組合費が安くなった。しっかりと分会から取り組んでいく事が大事。相手の意見をよく聞き職場の中心になろう。技術継承が出来ていない。要員不足であり乗務員のグラウンドシニア採用を求める。

ローカル線について分割民営化の時に多くの仲間が守ってきた

た経過がある。再構築協議会に国労の参加も必要である。24春闘について、物価高騰であり苦しい生活である。ストライキを背景にしっかりと要求を勝ち取ろう。闘う姿を見せよう。

貨物職場にスト配置を！



石田委員 (近畿)

貨物会社の賃金交渉について、期末手当は生活給の一部と認められている。社員や家族に犠牲を強いている。利益剰余金の還元を求め、ストライキで一致団結を。ストライキを知らない組合員が増えている、しっかりと運動の継承を。

新人事賃金制度について評価者のあり方等組合で点検が必要。

24年春闘学習会を開催



講演する因泥議長

西日本本部は関西貨物協議会と共に「2024年春闘学習会」を2月4日に開催しました。講師には全国貨物協議会議長の因泥一氏を迎え「物流2024年問題を考える トラック業界の実態と今後の貨物鉄道の役割、24春闘の闘い」と題して、労働者不足による国内物流の問題や貨物鉄道に求められる役割、24春闘に向けての考え方を講演していただきました。

「要求前進には組織拡大が切り離せない。組織拡大の教訓を活かし、職場の闘いや労働組合の重要性を訴え、組織拡大を実現する運動が重要である。」とのことでありました。学習会終了後、恵阪関西貨物協議会事務長より「2024年春闘勝利と組織強化拡大を実現する闘いについて」として、各ロジスティクス会社の仲間も含め24春闘に向け意思統一し団結し闘おうと提起がありました。西日本ロジスティクスの仲間や青年部の仲間も参加し24春闘に向けて大変有意義な学習会でありました。

がん保険にできることを、もっと。

No.1 アフラックがん保険 がん保険 がん保険 がん保険

NEW **生きるを創るがん保険 WINGS**

1 幅広い保障で経済的負担をサポート

2 付帯サービス<アフラックのよりそうがん相談サポート> (2023年1月23日サービス開始予定) アフラックのよりそうがん相談サポーターがさまざまな悩みの解決をサポート

「がんかもしれない」と思ったときから専門知識を持つ相談員が親身にお応えします。

(※1)アフラックのよりそうがん相談サポートはHatch Healthcare株式会社またはHatch Healthcare株式会社の提携先が提供するサービスであり、アフラックの保険契約による保障内容ではありません。サービスの詳細は、アフラックオフィシャルホームページ(https://www.aflac.co.jp/keiyaku/gansoudansupport.html)をご確認ください。

アベニール株式会社 (引受保険会社) AFツール-2022-0277-221003C 7月13日

アフラック 東京第二法人営業部 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル19階 TEL.03-6385-9829 FAX.03-3218-3885

TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

組織拡大はまだ出来ないが日頃からの目に見える運動が大事である。対話行動を実践していく。(その他の委員発言は次号へ)